書評 「宇宙旅行ガイド 140 億年の旅」

福江純 責任編集(丸善) 2000 円

この本は「パリティ」という物理専門雑誌の連載記事「宇宙旅行ガイド」が元になっている。連載が始まった当時、お硬い(とわたしは思っている)パリティにかわいいイラストを交えた記事が登場したので、思わず驚いた。月、太陽、太陽系と毎回スケールを大きくしながら、その天体を解説していく連載スタイルは非常に興味深く、毎回、「次の天体はなんだろう」「次の執筆者は誰だろう」と楽しみにしていた。そして、「これはいつか単行本になるな」と思って、心待ちにしていた。

そして、今回(といっても、昨年 12 月にはもう出ていたのだが)一冊の本になったわけだが、非常に魅力的な一冊となっている。この責任編集となっているのは、本会会員でもある、福江純氏である。14 人の執筆者からなるが、柴田一成氏(第 2 章、太陽)、吉川真氏(第 3 章、太陽系)、柴田晋平氏(第 9 章、中性子星)、富田晃彦氏(第 11 章、銀河)など、本会の会員も多数執筆している。そして先に触れたが、本書にかわいい彩りを添えているイラストを書いたのも本会の会員の坂元誠氏(西はりま天文台公園)である。

月、太陽、太陽系、……、恒星、銀河、銀河団と進めるスタイルはある意味よくあると言えるかもしれないが、スケールを意識したものはこれまでになかったスタイルであろう。各章の冒頭には「パワー・オブ・テン」ならぬ「パワー・オブ・ハンドレッド(百)」といえる、100 倍ごとのスケールがわかるイラストが添えられており、その天体がこの宇宙の中でどれくらいのスケールに対応するかがすぐに実感できる。

「宇宙旅行ガイド」というタイトルにあるように、各天体に対し「歩き方」「見どころ」さらには「危険情報」「警戒警報」など、観光案内を意識した構成になっているのもユニークである。「危険情報」では「史上最大のフレア」、「警戒情報」では「次の系内超新星」といった具合である。さらに、「第 5 章、恒星」では、「お手軽コース」「ちょっと遠出コース」「大遠征コース」など、いわゆる 1 等星と呼ばれる星たちをめぐるコースを紹介している。「第 10 章、ブラックホール」では、銀河系内のブラックホールの分布などの図もあり、これらのブラックホールをどう巡ったらいいか、というガイドもある。

また、最近の研究成果を踏まえた豊富な資料も特徴である。学校教員や科学館・公開天文台職員の方は、ひと通り、目を通しておいてどんな図表が載っているかチェックしておくとあとあと便利である。「過去の大フレアベスト 10」「銀河系内のブラックホールの一覧」「高赤方変移天体ベスト 10」などなど。ついついわれわれが「どこかにないかな」とウェブで探したくなるような資料が、豊富であるのもうれしい。とにかく読んでいて非常に楽しい。

元の連載をよく知っていただけに、本が一冊にまとまる過程をかいまみたようで、その点でも楽しくよめた。

大学の一般教養向けの天文学の教科書としても十分使えるものだと思う。もし、わたしに機会があれば、この本を教科書に使って、大学で講義をやってみたい。